

令和 6 年度

(2024 年)

事業報告

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

社会福祉法人

あじさいの家

令和 6 年度事業報告 目次

1、あじさいの家 基本理念

1)目的	1
2)運営方針	1
3)重点項目	1

2、日課

3、運営組織図

4、利用者及び職員状況一覧 ...

5、年間行事報告一覧

6、業務報告及び活動報告

◎運営	8
◎職員会議	7

〈総務部〉

◎広報	7
◎施設管理	7
◎防災管理	8
◎車両管理	8

〈支援部〉

◎ケース会議	8
◎支援計画	8
◎摂食	8
◎行事	9
◎交流	9
◎実習	9

◎安全・防災	10
◎医務・健康	10
◎研修	10

《山郷重度障害者生活支援センター

あじさいの家》

【生活介護】

◎活動	11
○ミーティング	11
○創	11
○楽	11
○動	12
○人形劇	12
○個別外出	12

【日中一時】

【短期入所】

《ヘルパーステーション・みっと

・あじさいの家》

【居宅介護】

【重度訪問介護】

〈事務部〉

◎庶務・経理	14
--------------	----

●全体を通して

1、あじさいの家 基本理念

1)目的

一人ひとりが日々充実して過ごし、生活の幅を広げながら、安心して地域生活を送ることができるよう支援することを目的とする。

2)運営方針

- ・ 生きがいを持って、豊かに暮らすことができるように支援する。
- ・ 安全で健康的な生活を送ることができるよう支援する。
- ・ 一人ひとりの個性が発揮できるよう支援する。

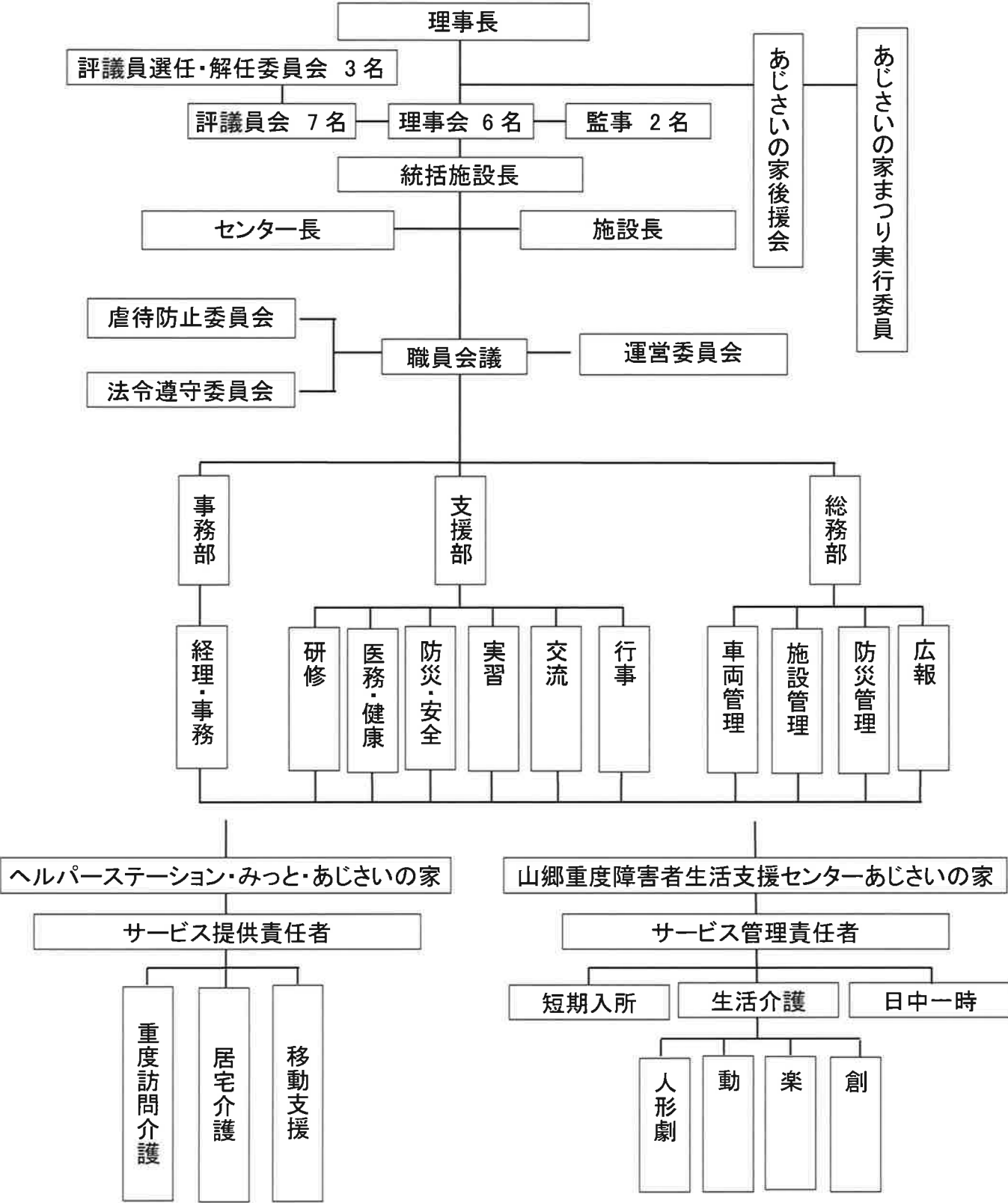
3)重点項目

- ・ 一人ひとりの個性を尊重し、自己表現できる場や機会を設定する。
- ・ 一人ひとりの障がいの特性を的確に把握し、体調の変化には絶えず留意する。
- ・ 地域とのかかわりを大切にし、社会資源を有効に使ったり、地域に積極的に出かけに行くなど、いろいろな体験をすることで生活の幅を広げる。
- ・ 居宅生活が安心して送れるよう支援する。

2、日課

8:30	職員打ち合わせ	14:00	午後の活動
8:40	送迎及び準備	15:15	片付け、帰宅準備
9:30	活動準備	15:45	帰りの会
10:00	朝の会	16:00	帰宅(送迎)
10:30	午前の活動	16:00	記録(清掃)
11:40	昼食準備	16:30	会議(活動準備)
12:00	昼食、休憩	17:30	帰宅

3、運営組織図及び担当(令和6年度)



4、利用者及び職員状況一覧

1、利用者の状況

令和7年(2025年)3月末現在

(1)通所状況

利用者定員 20名

利用者実数 20名

(2)入退所状況

令和6年度 新規利用者

男性 1名

女性 2名

令和5年度内 退所者

男性 0名

女性 0名

(長期欠席者 男性3名)

(3)曜日別利用者数

曜日	月	火	水	木	金	1日平均	昨年度
男	10	9	10	13	12	10.8 人	10.2 人
女	4	4	4	4	4	4 人	2.4 人
計	14	13	14	17	16	14.8 人	11.8 人

(4)通所市町

市町	いなべ市	東員町	桑名市	四日市市	菰野町	計
男	7	3	4	0	1	15
女	2	1	0	2	0	5
計	9	4	4	2	1	20

(5)年齢別在所者数

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	計	平均年齢
男	1	2	7	3	2	15	37.8歳
女	2	0	1	1	1	5	34.2歳
計	3	2	8	4	3	20	36.9歳

(6)施設在所者数

平均在席年数 13.2年

在籍年数	1年未満	2～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	計
男	1	0	0	2	8	4	15
女	2	0	0	1	1	1	5
計	3	0	0	3	9	5	20

(7)障害手帳保有状況

	1種			2種	計
	1級	2級	3級		
男	12	2	1	0	15
女	5	0	0	0	5
計	17	2	1	0	20

(8)障害程度(療育手帳判定による)

	A 最重度	A 重度	A1	A2	計
男	7	1	3	4	15
女	1	2	2	0	5
計	8	3	5	4	20

(9)障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分3～5	区分 6
男	0	0	0	15
女	0	0	0	5
計	0	0	0	20

(10) 日常生活状況

- ・移動 ※ 自力歩行、自助具を使用される方は、車椅子も併用している。

	自力歩行	車椅子使用	補助具移動
男	1	16	1
女	1	5	0
計	2	21	1

自力	半介助	全介助
0	2	13
0	1	4
0	3	17

- ・排泄

	自立	見守り	全介助
男	0	3	11
女	0	0	4
計	0	3	15

- ・食事

	自立	見守り	半介助	全介助
男	0	2	1	11
女	0	0	2	2
計	0	2	3	13

- ・食事形態 ※ 口からの摂取と経管栄養の併用有り

	普通食	普通食(一口)	刻み	ペースト(重複)	経管(胃瘻)	経管(鼻腔)
男	0	4	0	11(4)	5	0
女	0	3	0	1(1)	2	0
計	0	6	0	13(5)	5	1

- ・医療的ケア状況

	口腔内吸引	気・切吸引	胃瘻	鼻腔	導尿	尿路ストーマ
男	6	0	5	0	0	1
女	2	0	2	0	1	0
計	8	0	7	0	1	1

(11) 各事業別利用状況

生活介護	生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	いなべ市	150	151	138	148	113	132	157	140	116	97	119	140	1,601	133
東員町	東員町	74	80	73	78	64	68	77	80	74	65	67	71	871	72.6
桑名市	桑名市	32	42	38	34	30	31	38	30	28	26	26	28	383	31.9
菰野町	菰野町	23	22	26	28	23	9	13	10	11	10	10	13	198	16.5
四日市市	四日市市	7	10	8	8	6	6	8	8	7	6	6	7	87	7.25
合 計	合 計	286	305	283	296	236	246	293	268	236	204	228	259	3,140	262
日中一時	日中一時	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	いなべ市	6	6	4		1	1			1				19	1.58
東員町	東員町	4	5	5	5	3	4	5	4		5	2	3	45	3.75
桑名市	桑名市						1	1					1	3	0.25
合 計	合 計	10	11	9	5	4	6	6	4	1	5	2	4	67	5.58
短期入所	短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	いなべ市							6	4					10	0.83
東員町	東員町													0	0
桑名市	桑名市										1	1	2	4	0.33
合 計	合 計	0	0	0	0	0	0	6	4	0	1	1	2	14	1.17
居宅介護	居宅介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	いなべ市	55	56	50	55	38	48	57	55	41	33	52	57	597	49.8
東員町	東員町	21	21	19	22	19	19	22	23	21	20	21	18	246	20.5
桑名市	桑名市	7	9	7	7	7	7	8	9	10	6	8	9	94	7.8
菰野町	菰野町	6	9	7	6	6	5	7	8	7	6	4	7	78	6.5
合 計	合 計	89	95	83	90	70	79	87	95	79	65	85	91	1,015	84.6
重・訪	重・訪	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	いなべ市	54	56	58	60	61	60	62	43	30	18	44	32	578	48.2
合 計	合 計	54	56	58	60	61	60	62	43	30	18	44	32	578	48.2

2、職員の状況

(1)就退職状況

令和 6 年度 新規採用者 男性 0名 女性 1名
 令和 6 年度末 退職者 男性 0名 女性 1名

(2)職員状況

職名	正規職員		パート職員		業務委託職員		計
	男	女	男	女	男	女	
統括施設長	1						1
施設長※		1					1
センター長※		1					1
サビ・管※		施設長兼務					
サビ・提※		センター長兼務					
支援員		6	3	4			13
看護師		1		1			2
理学療法士				1			1
事務員				1			1
調理員				2			2
運転士			1		1		2
計	1	9	4	9	1	0	24

5、年間行事報告一覧

	法人関係	施設運営関係	行 事	交 流
4月	辞令交付(1) 入所式(1) あじさいの家まつり 実行委員会(18)	安全点検(8) 職員会議(11) ケース会議(11.30)		マスの放流(5)
5月	あじさいの家後援会総会(11) あじさいの家まつり 実行委員会(11) 法人内監査(16)	安全点検(22) 職員会議(14) ケース会議(14)		きらら学園校外学習交流 人形劇(20)
6月	あじさいの家まつり(2) 理事会(14) 評議員会(28)	安全点検(18) 職員会議(11) ケース会議(11)	あじさいの家まつり(2) 誕生会(28)	
7月		安全点検(16) 職員会議(9)	七夕会(5) 誕生会(24)	
8月		安全点検(20) 職員会議(6)		フラダンス(20)
9月		安全点検(11) 職員会議(10)	誕生会(30)	松尾貴臣さんコンサート(12)
10月	理事会(11) 評議員会(29)	職員会議(8) 安全点検(9) 避難訓練(11)	ハロウィン(31)	いなべ市障がい者 スポーツ交流会(26)
11月		職員会議(5) ケース会議(5) 安全点検(18)	W成人式(18)	地域交流会(聖母の家) (9)
12月	其原子供会交流(1)	安全点検(4) 職員会議(10) ケース会議(10.11)	其原子供会交流(1) 誕生会(18) クリスマス会&お楽しみ会 (25)	其原子供会交流(1) 桑名肢体不自由児者 親の会クリスマス会 (桑名福祉センター 多目的ホール)(7)
1月	法人監査(29)	ケース会議(6.14) 安全点検(10) 職員会議(14)	誕生会(2) 初詣(24)	
2月		職員会議(11) ケース会議(11) 安全点検(18)	節分(3)	
3月	理事会(14) 評議員会(28)	避難訓練(7) 安全点検(7) 職員会議(11.20.26.31) ケース会議(11)	誕生会(3) ひな祭り(3)	トリオ響コンサート(14) ハーモニカひまわり 演奏会(19) 北中グラスバンド部 演奏会(26)

	実習	医務・健康	研修	人形劇
4月		体重測定(4)		
5月		体重測定(2)		きらら学園 小学部 校外学習 人形劇(20) (あじさいの家に於いて)
6月	きらら学園実習 (24.25.26)	体重測定(7)		
7月	きらら学園実習 (1.2.3)	体重測定(4)		
8月		体重測定(2)		
9月		体重測定(5) 健康診断 (2.3.9.10.24.30)		
10月	ユマニテク実習 (10日～25日) 北勢中学校職場体験 (29日～31日)	体重測定(3) 健康診断		
11月		体重測定(8) インフルエンザ予防注射(25)		地域交流会(聖母の家) (9)
12月		体重測定(12)		桑名肢体不自由児者 親の会クリスマス会 (桑名福祉センター 多目的ホール)(7)
1月		体重測定(9)	障害福祉サービス事業所防 災セミナー(31)	
2月		体重測定(7)	虐待防止についての 研修(4)	らいむの丘(6) エンゼル幼稚園(25)
3月		体重測定(12)	多田PTIによる訓練研修(4)	

6、業務報告及び活動報告

◎運営

施設の運営全般に係る内容について、管理 計画 調整を行った。

緊急事案については迅速に対応することができたが、職員会議前の定例の打ち合わせは、短時間での開催となってしまった。

なかまの日々の生活については本人はもとより、家族も含め心身ともに安定して過ごすことができるよう、職員間での共通理解が図れるように努めてきた。しかし、問題点も多くあり施設全般の今後についても、話し合いの時間を十分にとる必要があると感じている。

来年度は十分な話し合いの時間を取り、職員間の共通理解を図ることを重要視していく。

◎職員会議

今年度も、月に一度(主に火曜日)定期的を実施した。

新しい事業も始まり、宿泊業務が増えた事により、職員のシフトの関係で全員参加が難しくなっている中、会議の内容としては年々深刻であり、現実には迫る課題に直面し、運営上新たに決めることや改善したことも多くあった。

また、今年度は新しいなかまが増えた事もあり、家庭の事情 なかまの状況や変化等の情報交換、共通理解、認識の場となった。今後、社会や行政の対応も目まぐるしく変わりつつある中、あじさいの家の状況も変わり、いろいろな課題に直面すると思われる。その都度しっかりとした意見交換が出来る場とし、施設運営を円滑に出来るよう、臨時の会議も含め定期的な時間の確保をし、一つ一つ解決に向けていきたい。

〈総務部〉

◎広報

屋外掲示板については定期的に作成した。地域の方たちも足を止めて楽しんでもらえるように季節を感じる内容のものを中心に歌詩を盛り込むなどの工夫を凝らした。屋内掲示板については貼り換え回数は少なくなってしまうが、なかまの活動の様子や楽しそうな雰囲気や充分に感じてもらえるような内容のものを作成することができたと思う。Instagramについては、活動内容を中心に情報発信し、多くの方にあじさいの家を知ってもらえるツールとして活用した。「かわら版」については、施設内の情報をなかま、保護者、職員の共通理解を図るためのツールとして不定期に発行した。

引き続き来年度も、様々なツールを使ってあじさいの家の取り組みやなかまの様子、行事の案内などを、施設内外へ情報発信していきたい。

◎施設管理

施設建屋、施設敷地内のすべての備品、設備等に関して、安全・防災の行なう施設内の安全点検をもとにして管理を行なった。昨年度は、食堂の洗面所の蛇口を2カ所取り替えたが、今年度においては大きな修理が必要な事例はなかった。しかし、自動ドアの不具合や、放送設備の不調、また年度末には、昨年修理が必要ではなかった食堂の蛇口が使えなくなっている。年数劣化が進んでいることは確かなので、今後も安全点検を元に破損箇所や改善箇所等の早期発見に努め、早期に対応していくことが必要である。

◎防災管理

年2回の業者委託の設備点検が行なわれ、特に問題は指摘されなかった。

また、2回計画した避難訓練も予定通り行なうことが出来た。今年度は昨年行えなかった地震体験車を依頼し、第2回避難訓練後に実施することができた。

BCP(事業継続計画)の見直しについては、安全・防災の係を中心に取り組んだ。なかまの個人票が以前より更新されていなかったもので、来年度は見直しを行いたい。今後も引き続き改訂を加え、その時の状況に適したものとしていきたい。

◎車両管理

今年度も無事故で1年過ごせたことは、何よりであった。しかし、どの車両も使用年数や走行距離の関係から、修理や消耗品の交換等に費用が増えてきている。また、なかまが増えたことにより、送迎の配車も配慮が必要となってきた。

職員一人ひとりが車両の取り扱いに注意し、不具合を感じたら速やかに対処を行なう事と、安全第一で乗務することが一番大切なことである。

〈支援部〉

◎ケース会議

月一度の職員会議時にケース会議を行うことが多かった。なかまの様子やそれぞれの情報交換を中心に行ない、支援の方向性を職員間での共通理解を深めた。

緊急事案については、その都度短い時間でも話し合いの時間を設け、情報伝達を行い、職員間の意思統一を図った。来年度も新しいなかま・職員が増えるので、なかまにとってより良い支援ができるよう、重要な時間として確保していきたい。

◎支援計画

年度末に行った懇談の内容をもとに計画を立てた。制度の改正に伴い、今年度から新たに記入する部分が増えるなど、新形式の支援計画の作成となった。

そのため目標や内容にそった支援の評価が、年度途中は口頭での対応、紙面での評価が一年のまとめとなったことが反省点であり、来年度の課題としたい。又、年度途中であっても、なかまや家庭の変化に伴った計画の見直しを柔軟に行っていく。

◎摂食

新しいなかまや、体調や食事の形態が変更になったなかまもいたが、コミュニケーションをとり職員同士情報共有しながら食事介助を行うことができた。ポジショニングについてなかまが、楽な姿勢で食べるように工夫したり外部の方にアドバイスをもらったりすることで、痰やムセが少しでもなく食べる事ができるようにすることができた。今後も、なかまの体調や様子をみながら職員や家族、なかまとコミュニケーションとりながら安全に行えるよう努めていきたい。

◎行事

子どもの日 セタ 水遊び お月見 ハロウィン お楽しみクリスマス会
初詣 節分 W 成人式など

今年も生まれ月に合わせてなかま一人ひとりが主役になれる誕生会を行った。今年度の誕生

日プレゼントは、みんなで写真やメッセージを貼り飾り付けたアルバムをプレゼントにした。写真は去年1年間のあじさいの家での写真を選んだ。新しく入所したなかま達にはあじさいの家のなかま達の写真を貼り名前を付けてプレゼントにした。

また、楽しく感じられる行事については、去年行けなかった初詣に1月の暖かい日に出かけることができた。久しぶりの外出になかま達の良い表情がみられた。

今後もなかま達の体調を留意しながら、外出や四季を感じられる心に残る行事を考えて行きたい。

◎交流

今年度も新型コロナウイルスの感染対策を充分に行なった上で、施設内外での交流を楽しんだ。

松尾貴臣さんやハーモニカひまわりさんは昨年に引き続き、響さんは一年振り、マスの放流はコロナ禍になってから4年振りに実施された。またフラダンスは十何年か振りに来ていただいた。

昨年より、其原子供会や桑名肢体不自由児者の会とはクリスマス会として交流をし、歌やダンスを楽しんだり人形劇の公演を行なうなど、有意義な時間を共有することが出来た。しかし、きらら学園小学部の児童とは接触を最小限にし、スポーツ交流会は規模を縮小した上、競技内容も大幅に変更にするなどコロナ禍の余波を未だに受けている。

今後もなかまの体調や社会の状況に十分に留意しながら参加していく。

◎実習

今年度もユマニテク福祉専門学校、北勢中学校、きらら学園からの実習を受け入れた。

それぞれ年齢や立場、目的、実習期間など違いはあったが、同じ空間で、同じ時間を過ごしあじさいの家の理念や思いに触れてもらうことができたと思う。ユマニテク福祉専門学校の実習は2週間を共に過ごし、なかまとじっくり関わってもらえたことがとても良かった。北勢中学校の実習では実習生に音楽演奏をしてもらう機会もあり、とても楽しい時間を過ごすことができた。

実習を通してたくさんの人と接する機会を持つことができ、なかま・職員にとっても良い刺激を得られ、皆が有意義な時間とすることができた。

来年度も積極的に実習生を受け入れていき、お互いに意義のあるものにしていきたい。

◎安全・防災

今年度も10月と3月の2回、避難訓練を行った。

訓練前には阪神・淡路大震災直後から、地域復興に向けて戦った30年間の思いを実際の映像で視聴し記録を見た。災害を負った障がい者が自ら立ち上がり、やがて地域住民や国中の協力支援団体を巻き込んでいく内容であった。災害は大きな苦しみであるだけでなく、災害後からの復興がいかに大変なのかを改めて痛感させられるものであった。

訓練終了後には地震体験車を依頼し防災課の方からの講話を聞いたり、なかま・職員ともに震度4弱～6強の地震を体感する貴重な機会を持つことができた。

防災セミナーに参加した職員から話を聞いたり、避難する時の様子やなかまが安全に避難できるよう日頃から注意するべきこと等、職員間で意見交換し、食堂にも防災頭巾を設置する良い機会となった。

月1回行なう安全点検については、毎月違う職員に点検してもらう事で色々な目線から点検す

ることができた。

不具合の指摘があったものに関しては、今後も補修や交換を随時行なっていく。BCP に関しては名簿やなかまの薬表などの見直しを行い、順次更新している。

◎医務・健康

前年度に引き続き、体重測定、医療機関での健康診断、インフルエンザの予防接種を行いなかまの健康管理に努めた。

職員一人ひとりがなかまの状態を把握し、委託医と内服や状態の情報共有をすることができ、密に連携をとることができた。

コロナやインフルエンザ、流行り病など、職員だけでなくなかまの家族も連絡し早期発見し積極的に検査を受けたり、疑わしい時は休むなどの協力があり、今年度は感染拡大することがなかった。

昨年度から始まったなかまのロングショート(4月からはシェアハウス利用し重訪で対応)では、利用しているなかまの体調が変わりやすく、発熱や発作などあった際には職員や家族で情報共有を行い対応した。しかし、医療機関で診察や検査を行うも状態が改善せず、長期入院したりと職員や家族も不安があった。状態に応じて対策を考えていかなければならないと思う。

今後も、なかまの健康状態について家族や職員同士で情報共有していきたい。なかまが楽しく安全に活動できるようにしたい。

◎研修

今年度は8年ぶりに理学療法士の多田先生の訓練会を実施することができた。なかま全員に共通する訓練方法を学ぶことができ、改めて日ごろからなかまの身体に触れる重要性を確認する良い機会となった。

静的弛緩誘導法の研修については、奥山先生が今年度から職員になられたこともあり、静的弛緩訓練として活動に取り入れることができています。

虐待防止研修、いなべ市障がい福祉課主催の防災セミナーに参加した職員によるフィードバックを行い、職員間の意識を高めることができた。

今後も引き続き職員のスキルアップが図れるよう、外部の研修会にも積極的に参加していきたい。

《山郷重度障害者生活支援センター あじさいの家》

【生活介護】

◎活動

「創」「動」「楽」の大きく3つに分け活動を行った。

去年に引き続き人形劇公演の依頼も増えて、それぞれが目的を持ち今出来る範囲内で毎日を楽しく過ごせるような内容を考え実行に移し、一年間を有意義に過ごすことが出来たと思う。

来年度もなかまの体調に配慮しながら、主体的に取り組める活動を目指していく。

○ミーティング

今年度も週初めに行い、興味や関心、意欲をもっていろいろな行事や活動に参加できるように一週間の行事や活動を確認した。

また、なかまの休み中の様子などを知ること、お互いを尊重し合い、関わりを深めたり
思いを共有できる場ともなった。

今後も意見交換の場として有意義な時間となるように活用していきたい。

○創

今年度もなかまに五感を通して『つくる』ことの楽しさや喜べる内容を工夫した。

「年賀状作り」や「玄関の壁の飾り作り」をはじめ、広告を使ってなかまそれぞれが想像を膨らませ、思い思いの物を作った。また自ら掘ったり頂いたさつまいもや頂いたかぼすを使い、「パウンドケーキ」や「チーズケーキ」を作る調理を行った。素材そのものの匂いや感触、焼き上がりの香りを楽しむことが出来た。

また交流のお礼として、毛糸を使った「あおむし」や「ひよこ」をみんなで手作りした。

限られた時間の中で、なかまと意見を出し合いながら、様々な『つくる』活動をしていきたい。

○楽

なかまが心も身体も快よく、「楽しい！」を感じる時間の中から、互いの良い事を知り、共に楽しむことを一番の目的としながら、様々な活動を行ってきた。

今年度は活動回数としては少なくなってしまったが、お正月には坊主めくりを行った。なかまと一緒に考えたり、想像したりといった「感覚」を楽しんだ。

今年は雪が沢山積もった為、みんなで外に出て雪を手で掴んだり触ったりし、冷たい「感覚」や触った時の雪のふわとした「感触」を体感しながら楽しめた。その中から季節を五感で感じる事ができた。

その他にもさまざまな活動を通じ、なかまと大切な時間を持つことができた。

変わりゆく状況の中、限られた時間を使って、なかまの「楽しい！」をたくさん引き出せる事を目標に今後も活動を行っていく。

○動

今年度も楽しく体を動かせる活動を行った。季節に合わせ暑さが厳しい時は室内でゲーム的な要素を取り入れた活動を行ったり寒い時は体が温まる足湯を行ったりした。また、不定期ではあったがなかま一人ひとりにあった訓練も継続的に行った。

今後もなかまの体調に留意し、無理のない楽しく体を動かせるような活動内容にしていきたい。

○人形劇

今年度も地域のイベントや学校・施設関係など数多くの公演依頼をいただき、保護者の方々の協力も得ながら、なかま、職員共に幅広い範囲で地域の方々との交流を楽しむことが出来た。

きらら学園小学部の児童が学校の行事としてあじさいの家を訪問。人形劇公演となかまとの交流を楽しんだ。

地域交流会では初めての場所、聖母の家学園(旧東藤原小学校)での公演を行い、地域の方々との交流を深めた。

昨年に引き続き、桑名市肢体不自由児者保護者会からの依頼で桑名福祉センターでの公

演。クリスマスイベントと合わせて、障がいを持つ方々との交流を楽しんだ。嬉しいことにその公演を観てくださった方から新規にらいむの丘(桑名福祉ヴィレッジ)で公演依頼があり、障がいを持つ方々や保育園児たちと楽しい時間を過ごすことが出来た。

今年度最後の公演となったエンゼル幼稚園では、子供たちの大歓声や笑顔に、なかま職員皆が感動し、励みとなる時間となった。

残念ながら、予定していた石樽保育園の公演は保育園側がインフルエンザが蔓延し、公演見合わせとなった。

職員の勤務体制の変化に伴い、思うような練習時間や準備の時間が確保出来なかった事は反省点である。しかし今後もなかまの社会参加の場として大切な人形劇公演を継続できるように今の現状に合った方法を職員間で検討していく必要があると思われる。

○個別外出

今年度も人員配置不足などから、実施することが出来なかった事が残念であった。

個別外出はなかまにとって特別な楽しみであり、日々の励みにもなる為、来年度は実施に向け、人員配置や体制に留意しながら計画をしていきたい。

【日中一時】

今年度の報酬改定に伴い、利用の仕方に変化が見られた。今まで入浴に関して基本(月、水)の活動後としていたが、生活介護の中に含まれることが多くなったことや、昨年度までロングの短期入所を利用していたなかまが、シェアハウスで重訪を利用することとなったため、施設の休業日の利用が、主な内容となった。

利用者数は少ないが、緊急時対応として、誰もが安心して使える事業として引き続き行っていく。

【短期入所】

昨年度ロングショートとして利用していたなかまが、4月から重訪を利用することとなり、今年度は本来の目的である緊急時対応制度として活用した。利用は少なかったが家族の緊急事案に迅速に対応することができた。

今後も誰もが安心して日常生活を送ることができるよう継続していく。

《ヘルパーステーション・みつと・あじさいの家》

【居宅介護】

昨年に引き続き、5名が身体介護(送迎時の移乗、着替え、オムツ交換等の身支度)1名が入浴介助として契約している。年々居宅事業を必要とする家庭が増えているが、契約者以外の家庭においては緊急対応の形をとっている。休日の訪問介護利用の希望の声も増えているが、職員不足が大きな原因の一つとなり、なかなか要望に答えることが出来ていないのが現状である。

年々必要性が増す中、今後居宅事業が安心できる生活に繋がっていくよう、何か可能性を見出し続けていきたい。

【重度訪問介護】

今年度4月1日より、重度訪問介護としてシェアハウスでの生活が始まった。契約は変わらず2名となっている。緊急対応として、ロングショートの形でスタートし、この一年の間に様々な状況に直面することとなった。感染時の対応、体調不良により長期の入院、また大雪時の対策、職員の配置等その都度試行錯誤を重ね、みんなで悩み、話し合いながら解決に向けてきた。今後も日々の生活の中で、いろいろな事に直面し、改めて気付くことや課題も沢山あると思われるが、職員同士の理解を深め、協力体制をとり、重度訪問介護事業が安心できる生活の場として利用出来るよう繋げていきたい。

〈事務部〉

◎庶務・経理

施設経理に関しては、今年度も引き続き菊山会計事務所と連携し、明瞭で確実な業務が行なえた。今年度は法人監査があったが、経理に関しての指導は無かった。取引金融機関を農協から桑名三重信用金庫へ変更したため、様々な手続きに時間がかかった。備品や消耗品等については、迅速な対応ができ、日常の施設運営や活動に支障は見られなかった。

●全体を通して

今年度は介護給付費の大幅な制度改革があり、短期間で手続きを行わなくてはならなかったため、書類の不具合が生じ、2か月間給付費が支払われない事態となった。職員の給与や各箇所への支払い等が出来ない事態が想定された為、短期の借入を行った。また、介護給付費請求を業務委託していたが、独自で行うようにソフトの導入を行った。しかし、慣れないこともあり、請求業務が上手くいかず返礼を受けることがあり、予定の給付費が入金できない事態もあった。そのため、今年度より取引銀行となった桑名三重信用金庫から2回短期融資を受けることとなった。現在の請求業務については、完全ではないものの、独自で請求業務を行っている。今後はより完璧に行えるようにしていく。

前年度より課題となっていた、シェアハウスでの重度訪問介護事業であるが、4月より実施する事が出来た。利用しているなかまにおいては、大きな家庭環境の変化であったが、今まで通りの生活に近い暮らしが出来ていると思われる。しかし、365日24時間体制で支援にあたる必要があるため、職員体制にかなり無理が生じてしまった。来年度は職員体制や勤務体制を見直し、職員の負担軽減に努めたい。

居宅介護に関しては、朝の着替えや移乗などの支援と、訪問入浴の身体介護を行った。引き続き支援を行っていくと共に、なかまの体の状況や、家庭環境の変化等が生じてきた場合は、適切な支援が出来るよう心掛けたい。

活動に関しては、重度訪問介護との兼務の関係から、職員不足の日もあり、活動を充実させるのが困難なこともあった。しかし、対外的な活動、いろいろな団体の受け入れ、人形劇や外出などに関しては、まだ感染症に注意は必要ではあるが、徐々に活動範囲も戻りつつある。今後も感染予防対策を行い、無理のない範囲で取り組んでいきたい。

来年度は職員の勤務体制を見直し、負担を軽減しながら、引き続きなかまや家族が、どんな状況に於いても、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、家族、職員、そして関係者みんなで取り組んでいきたい。